



育G新聞編集部 編集協力：
NPO法人 ファザーリング・ジャパン
NPO法人 孫育て・ニッポン

育G インフォメーション

楽しい子育て・孫育て講座

【日 程】9/6(金)、10/4(金)

【時 間】午後1時30分～3時30分

【参加費】1000円(一家族)

【場 所】東京都台東区
社団法人日本助産師会2階研修室

【対 象】祖父母、ママ・パパ

【主 催】社団法人日本助産師会2階研修室
NPO法人 孫育て・ニッポン

NPO法人 孫育て・ニッポン
会員募集中!

家庭や地域で「孫育ての笑(わ)」を広げる仲間を募集しています。孫の有無、年齢、性別は問いません。9月から会報「おまご新聞」(年4回)を発行予定。

詳しくは→www.magosodate-nippon.org

育G発見

No.18

三菱地所ホーム株式会社
代表取締役社長

西貝 昇さん

「親友は まご きみがまごでうれしいよ」の歌詞ではじまる孫と祖父が登場するCM。記憶に残っている人も多いだろう。今回は自社ブランド『ずっと好きでいられる家』のプロモーションに“まごそふ”を起用した三菱地所ホーム株式会社 代表取締役社長西貝昇氏に、二世帯住宅作りの秘訣などをうかがった。



「近年、娘世帯との近居が増えていますね。また同居も増えているように感じます。親が首都圏に在住しているケースが一世帯前に比べ多いからでしょうか。三世帯同居となると、費用規模も大きくなるので、長く安心して住める家造りがポイントとなります。」

三菱地所ホームの『ずっと好きでいられる家』は、全館空調『エアロテック』がかなえる空気のバリアフリー、一邸一邸ごとのフレキシブルな自由設計、長く住める家(長期50年保証)などが特徴だ。

「私たちが考える『ずっと好きでいられる家——愛されながら、世代を超えてずっと住み継がれていく住まい』への思いや技術を幅広い世代に伝えるのに“孫と祖父”はピッタリ。あの二人は実の祖父とお孫さんなんです。」

二世帯住宅を建てる時には、一番大切なのは家族の話し合い。

「家を建てる時、リフォームするときに、同居する人たちがそれぞれの考えを整理し、よく話し合うことが大切です。二世帯住宅という段差などをなくすバリアフリーをイメージされる方が多いのですが、コミュニケーションがとりにくい間取りも障がいのひとつ。絆、コミュニケーションが育まれる場、吹き抜けなど人の気配を感じる空間、自分の時間、空間が守られるプライバシースペースをつくるのが大事です。ケンカをしたときなど、逃げ場が外だと悲しいですね。」

一緒に住むためのルールを決めておくこともおすすめしますね。孫たちの成長などによりルールも変わるでしょうが、限りあるスペースでの生活なので、ルールやお互い譲り合う気持ちも必要ですね。孫も入れて、家での役割を決めるのもいいでしょう。社会性、人格形成にも寄与すると思います。同居の場合はとくに、

孫が両世帯の“かすがい”になることは間違いありませんね」

西貝氏もご両親との近居暮らしで、祖父母、孫双方のメリットを感じたという。

「子どもが小さいときには、子どもを預かってもらい、助かりましたね。子どもたちが少し大きくなると、勝手に行き来してました。祖父母の家、場所は、他人の家ともまた違った空間。祖父母の友人との交流など、私たちだけでの暮らしでは味わうことができない刺激を受けたと思います。祖父母と一緒に過ごすことで、社会性、協調性も子どもたちは学んだでしょう。祖父母にとっても、孫と過ごすことで積極的になり、長生きする糧になっていると思います。」

家を建てる、リフォームをする際には、専門家の力を有効活用することを西貝氏はすすめる。

「家族だけの話し合いでは、折り合いがつかないこともあります。専門家が入ることで、違った視点、よりよい提案も受けられるでしょう。未来を想像しながら家族で楽しみながら家造りをさせていただき、私たちはそのお手伝いができればと思っています」

育G潮流

スマホ、タブレットで、
孫とコミュニケーション

野球、サッカーなどスポーツ観戦に出かけると、じいじと孫というペアに良く出会う。先日、私が球場へ出かけた時のこと。じいじは座席につくと、カバンの中からタブレット端末をとりだし、まずは孫のママに映像付きで到着の報告。その後、先発メンバーが発表されるとその選手のデータページをさっと

育Gスタイル

育Gスタイリスト
G. ハヤシの、孫が来たときに遊ぶコツ～
「Gの部屋を秘密基地に！」

この夏、かわいい孫が遊びにきたときにおすすめしたいのがGの部屋を秘密基地にしてしまう方法。まず、床にスペースをつくっておきます。たとえば、フロアマットなどを広げておくところが陣地になります。古新聞、段ボール、洗濯バサミなどを使って部屋を仕切ればあっという間に秘密基地に早変わり。小さなおもちゃや文房具を隠して、宝さがしをするのも盛り上がります。

大事なモノ、危ないモノは手の届かないところにしまっておきましょう。いっしょにお片づけまでできるとなお良し、リビングが散らからないのでおばあちゃんも大助かりです。



出し、投手、打者の相性、特徴などを、孫と一緒に分析していく。その姿がカッコイイ！孫がじいじを見る目も輝いている。

60歳以上のシニア層のインターネット閲覧の手段は、シニア層は約3割がパソコン、スマホは約4%、タブレットは約2%にとどまっているが（総務省「平成23年通信利用動向調査」）、ガラケーからスマホに変更したい携帯電話ユーザーは6割を超える（シニア・ナビリサーチ）。

インターネット、パソコン、メールを

仕事で使いこなしたイマドキのじいじたちにとって、スマホ、タブレットは、電話、メール以外に、遊ぶ、調べる、共有するなど、孫とのコミュニケーションツールとなるだろう。ただし、便利な裏に危険が潜んでいること忘れてはならない。育G世代は、アナログ、デジタル両方の世界を知っている世代。メリット、デメリットをしっかりと孫たちに伝えながら孫とのコミュニケーションツールとしてのスマホ、タブレットの使い方を模索して欲しい。

（NPO法人孫育て・ニッポン 理事長 ぼうだあきこ）